

舞踏の方法を取り入れた精神科領域での安全なダンスセラピーについて

葛西俊治（札幌学院大学人文学部臨床心理学科）

発表要旨

日本発の前衛的パフォーマンス・アートである舞踏は、海外では白塗り剃髪の舞踏家による特異なインパクトによって知られている。そのため、臨床領域でのダンスセラピーに舞踏の方法を取り入れる際には、心身状況や自我境界の強さなどを注視して行う必要がある。安全な範囲での穏やかなレッスンと心身の強度をやや必要とするレッスンを比較して、対象者に合わせてセッションを構成する必要性を提示する。

経緯

1990年代以降、欧米各国では自らの文化的・身体的・宗教的等の状況に即した舞踏活動が始まり、現在では様々な butoh が各国で展開されている。そうした中で、D/MT のセッションの中に舞踏的要素を取り入れることも様々に試みられている。しかし、海外での事例として、精神科領域など自我強度が脆弱であるような対象者に対して無自覚に舞踏的セッションを行い、心あるダンスセラピストならびに関連の D/MT 協会関係者から疑問視されるという事例があったことを知らされた。そうしたことで日本の文化的資産の一つである舞踏と、舞踏的アプローチを取り入れたダンスセラピーに対しても疑念を招きかねず何らかの方策を明確化する必要を感じた。

また、アートそれ自体の中に非日常的な世界への没入の要素が存在していることから、日常の社会生活からの逃避として、たとえば舞踏の中にある「祝祭的な時空」*へと逃げ込み、精神科における心理療法的な枠組みから離脱する口実に「butoh」ということが利用される事態も散見してきた。

*木村敏による「イントラ・フェストゥム *intra-festum*」（「祭りの最中」的な心性）

安全な展開に向けて

発表者は1980年代からの海外での舞踏公演活動の中で、舞踏の表現性の中に含まれるそうした危険性に遭遇したことから、たとえば次のような基準を設けることによって、精神科領域(主にディケアでのプログラム)において安全に展開する方策を確認してきている。

なお、精神科のナイトケア・プログラムとして、舞踏に基づいて「エネルギー解放」の試みを導入した大沼幸子(2014)[1]には、安全で安心な導入と展開について参考になる点が多々見られる。

1) 精神科領域では、舞踏の基礎的身体訓練を中心に取り入れることにし、過激・過剰になりがちな舞踏の表現活動は抑制する。

2) 舞踏的身体訓練の導入に際しても、a) 精神科領域(病棟あるいはディケア)の対象者と関わる経験を一定程度有していること、b) プログラム担当スタッフの参加と理解が得られていること。c) 参加者と一定程度のラポールが形成されており、マリアン・チェイスの説く"dance for communication"という関係化が前提となっていること。

3) 海外のダンスセラピー関連の学会発表・指導において、Butoh は特にセラピスト自身の身体心理的訓練の場として重要であり、非日常的な異世界の体験がセラピストとしての対応力を深めること[3,4,5,6,8]を指摘してきた。そして、安全な身体心理的技法を指導し安全性の確保が重要であることを示してきた[2,7,9]。

心身訓練の例一 比較的安全な方法と配慮すべき内容について

反応には個人差が大きいが一例として示す。

◎エクササイズ2：「腕の回旋」

*エクササイズ1：「寝ニョロ」
(あおむけに横たわる姿勢で両足を揺らされる動きには配慮が必要。)



◎エクササイズ3：「腕の立ち上げ」



◎エクササイズ4：「3分間かけて指を開く」



- *エクササイズ5：「痙攣」 (強い衝動を惹起する可能性)
- *エクササイズ6：「身体を歪みねじ曲げる」 (強い衝動を惹起する可能性)
- *エクササイズ7：「空に向かって踊る」 (舞踏的エチュード:情動的反応を惹起する可能性)

※"Butoh dance, Noguchi taiso, and healing"[9]に掲載されている7種のエクササイズについて。
動画は舞踏家・竹内実花 (美馬千秋氏)の協力による。

参考資料

- [1]大沼幸子「舞踏ダンスによるエネルギー解放の試み」ダンスセラピー研究、Vol.8,No.1, 31-41, 2014
- [2]Toshiharu Kasai "Sense of safety and security for creative works nurtured by meditative Butoh dance movements", 10th ECArTE 2009, London, U.K.
- [3]Toshiharu Kasai "Feeling, a subconscious and built-in physical evaluation system, works in Butoh dance method", 11th ECArTE 2011, Lucca, Italy
- [4]Chiaki Mima "Butoh aesthetic: Intelligence of body-mind chaos", 同上 2011
- [5]Toshiharu Kasai "Three phased dance therapy program for enhanced awareness and reflection", 12th ECArTE 2013, Paris, France
- [6]Chiaki Mima "Primordial Butoh Dance Elicits Another Sphere of Bodymind Reflection", 同上 2013
- [7]Toshiharu Kasai "Significance of Slow and Small Movements in Japanese Dance Therapy", 13th ECArTE 2015, Palermo, Italy
- [8]Chiaki Mima "Delicate and chaotic movements in butoh dance widen the approach of dance movement therapy", 同上 2015
- [9]Paola Esposito and Toshiharu Kasai "Butoh Dance, Noguchi Taiso and Healing" in "Oxford Handbook of Dance and Wellbeing" by Vassiliki Karkou, et al. (in press) 2015

*ECArTE: European Consortium for Arts Therapies Education

アートセラピスト、ドラマセラピスト、ミュージックセラピスト、ダンスセラピストという4種類のアート領域セラピーの実践・教育・制度化促進のため隔年で実施される、ヨーロッパ各国の当該セラピー団体の共同大会。

日本ダンス・セラピー協会第24回学術研究大会 大妻女子大学 2015 葛西俊治・発表資料